

科 目		社会科学Ⅰ（心理学）			
科目分野	基礎 分野	学 期	前 期		
学 年	1 年次	担当教員	魚住 麻美		
単位数	2 単位		実務経験	治療院勤務9年	
【授業の概要】 授業形態 講義					
<ul style="list-style-type: none"> ・心理学の基礎的な理論や心理臨床、様々な技法について知識を深める。 ・あん摩マッサージ指圧師の国家資格試験出題範囲の中から心理学分野を抜粋し解答解説を行う。 					
【到達目標】					
講義を通じて人の心に関心を持ち、対人援助や自己理解のために知識を深め、臨床の現場や日常生活場面で活用することができる。					
回	授業計画		回	授業計画	
1	講義概要説明、心理学のはじまり		16		
2	行動、学習		17		
3	知覚、記憶		18		
4	発達① 子どもの発達		19		
5	発達② 大人の発達		20		
6	パーソナリティ		21		
7	他者、集団、社会		22		
8	こころの健康、ストレス		23		
9	精神疾患①		24		
10	精神疾患②		25		
11	意識、脳波		26		
12	睡眠、睡眠障害		27		
13	心理に関する法律、心理職について		28		
14	心理療法		29		
15	カウンセリングとアサーション		30		
教科書 参考書等	教科書 なし。授業はプリントを配布予定。 参考図書「よくわかる心理学」ミネルヴァ書房、「心理学 第5版」東京大学出版会 他				
評価方法	授業レポートの内容、課題提出を総合的に評価。				
成績評価指標	1. 当該科目の総授業時間数のうち3分の2以上の出席に達しない者は、単位の認定を行わない。 2. 成績評価の基準は次の通りとし、A、B、C、Dを合格、Fを不合格とする。 (1)A:90～100点 (2)B:80～89点 (3)C:70～79点 (4)D:60～69点 (5)F:60点未満				

科 目		人文科学（英語）		
科目分野	基礎 分野	学 期	前 期	
学 年	1 年次	担当教員	小林 由美子	
単位数	2 単位			
【授業の概要】 授業形態 講 義				
・健康・医療関連の話題における、単語・熟語・表現法の体得、長文読解、語源の理解。				
【到達目標】				
・平易な英文が読める。 ・患者や専門職との平易な英会話ができる。 ・医療英語の基本的な語源がわかる。				
回	授業計画	回	授業計画	
1	イントロダクション	16		
2	からだ:頭部	17		
3	からだ:手足	18		
4	からだ:体幹・内蔵	19		
5	用語の構成、からだの構造と機能:細胞・器官・系	20		
6	からだの構造と機能:筋骨格系	21		
7	からだの構造と機能:神経系	22		
8	からだの構造と機能:消化器系	23		
9	疾病:脳卒中	24		
10	疾病:アトピー性皮膚炎・花粉症	25		
11	運動・食事	26		
12	痛み	27		
13	健康とは・指圧	28		
14	略語、まとめ(1)	29		
15	まとめ(2)	30		
教科書 参考書等	適宜、資料を配付。			
評価方法	・15回全課題の総合点による(初回に説明))			
成績評価指標	1. 当該科目の総授業時間数のうち3分の2以上の出席に達しない者は、単位の認定を行わない。 2. 成績評価の基準は次の通りとし、A、B、C、Dを合格、Fを不合格とする。 (1)A:90～100点 (2)B:80～89点 (3)C:70～79点 (4)D:60～69点 (5)F:60点未満			

科 目		健康科学Ⅰ(前期)・健康科学Ⅱ(中期)	
科目分野	基礎 分野	学 期	前中 期
学 年	1 年次	担当教員	瀧野 辰雄
単位数	各々2 単位		
【授業の概要】 授業形態 講義			
<p>施術者が臨床において遭遇する可能性のある「健康」、「運動」に関する相談について適切な情報提供を行うことができる知識を身につけるため、運動と心の健康、スポーツの上達過程、高齢化社会と健康、筋力トレーニングと体力向上、運動やスポーツでの安全確保などのテーマについて概説する。</p>			
【到達目標】			
<p>充実した生活を送るうえで、心身が健康であることは重要である。さらに将来、就職した際に健康に関する知識を修得していることは、職業柄必須であると言える。本授業を通して身体的な健康のみならず心理的な健康の知識や運動・スポーツの知識を深めることを目指す。</p>			
回	授業計画 (健康科学Ⅰ)	回	授業計画 (健康科学Ⅱ)
1	前期ガイダンス	16	中期ガイダンス・応急手当の意義
2	私たちの健康のすがた・とらえ方	17	応急手当の基本と日常的な応急手当
3	健康と意思決定・環境づくり	18	心肺蘇生
4	高齢化社会と健康	19	心身の相関とストレス
5	働くことと健康	20	運動と心の健康
6	現代社会とこれから	21	心の健康と自己実現
7	オリンピック・パラリンピック	22	心の健康とトレーニング
8	運動やスポーツでの安全確保	23	スポーツの上達過程
9	ドーピングとスポーツ倫理	24	人間にとって「動く」とは何か
10	スポーツと経済	25	スポーツと体力
11	生活習慣病・食事	26	筋力トレーニングと体力向上、
12	運動・休養・睡眠と健康	27	持久的トレーニングと体力向上
13	喫煙・飲酒と健康	28	セルフケア①
14	生命倫理	29	セルフケア②
15	情報化社会とその問題点	30	中期健康科学Ⅱまとめ
教科書 参考書等	使用しない。		
評価方法	課題提出(課題提出の内容と出席、課題提出が出席確認とします。)(100%) 各期における評価が60点以上で単位を認定する。		
成績評価指標	1、当該科目の総授業時間数のうち3分の2以上の出席に達しない者は、単位認定を行わない。 2、成績評価の基準は次の通りとし、A、B、C、Dを合格、Fを不合格とする。 (1)A:90～100点 (2)B:80～89点 (3)C:70～79点 (4)D:60～69点 (5)F:60点未満		

科 目		人体の構造と機能 I			
科目分野	専門基礎 分野	学 期	前中 期		
学 年	1 年次	担当教員	大久保直子		
単位数	2 単位		実務経験	治療院勤務20年	
【授業の概要】 授業形態 講義					
<p>あん摩マッサージ指圧師に必要な運動器系の学習をする。 骨や筋肉を正しく理解し、指圧実技修得の基礎を構築するとともに、次年度以降の科目の土台をつくる。</p>					
【到達目標】					
骨の名称、筋肉の名称、付着部位、作用、支配神経を正しく述べるができる。					
回	授業計画		回	授業計画	
1	第2章運動器系	A運動器系とは	16	第2章運動器系	B全身の骨格 下肢
2	第2章運動器系	A運動器系とは	17	第2章運動器系	B全身の骨格 下肢
3	第2章運動器系	A運動器系とは	18	第2章運動器系	B全身の骨格 頭蓋
4	第2章運動器系	A運動器系とは	19	第2章運動器系	B全身の骨格 頭蓋
5	第2章運動器系	B全身の骨格 脊柱	20	第2章運動器系	B全身の骨格 頭蓋
6	第2章運動器系	B全身の骨格 脊柱	21	第2章運動器系	C全身の骨格筋 体幹
7	第2章運動器系	B全身の骨格 脊柱	22	第2章運動器系	C全身の骨格筋 体幹
8	第2章運動器系	B全身の骨格 胸郭 中間試験	23	第2章運動器系	C全身の骨格筋 体幹 中間試験
9	第2章運動器系	B全身の骨格 上肢	24	第2章運動器系	C全身の骨格筋 上肢
10	第2章運動器系	B全身の骨格 上肢	25	第2章運動器系	C全身の骨格筋 上肢
11	第2章運動器系	B全身の骨格 上肢	26	第2章運動器系	C全身の骨格筋 上肢
12	第2章運動器系	B全身の骨格 上肢	27	第2章運動器系	C全身の骨格筋 上肢
13	第2章運動器系	B全身の骨格 下肢	28	第2章運動器系	C全身の骨格筋 下肢
14	第2章運動器系	B全身の骨格 下肢 期末試験	29	第2章運動器系	C全身の骨格筋 下肢 期末試験
15	第2章運動器系	B全身の骨格 下肢	30	第2章運動器系	C全身の骨格筋 下肢
教科書 参考書等		『解剖生理』 東洋療法学校協会 編			
評価方法		原則、定期試験(中間試験も含む)と出席状況で評価する。 授業態度を加えることもある。 (小テストの日程は進度により前後することがあります。)			
成績評価指標		1. 当該科目の総授業時間数のうち3分の2以上の出席に達しない者は、単位の認定を行わない。 2. 成績評価の基準は次の通りとし、A、B、C、Dを合格、Fを不合格とする。 (1)A:90~100点 (2)B:80~89点 (3)C:70~79点 (4)D:60~69点 (5)F:60点未満			

科目		人体の構造と機能Ⅱ			
科目分野	専門基礎 分野	学期	前中 期		
学年	1 年次	担当教員	飯村 彰		
単位数	2 単位				
【授業の概要】 授業形態 講義					
人体の呼吸器系、内分泌・体温、生殖・加齢の構造と機能を理解し、各部の名称と働きを把握する。					
【到達目標】					
各器官系の構造と機能を理解すると共に器官系の相互の関連を理解し、疾患の診断・治療を学修する基礎を構築する。					
回	日付	授業計画	回	日付	
1	/	呼吸と換気 気道	16	/	隣島
2	/	気道 喉頭	17	/	副腎
3	/	気管と気管支 肺	18	/	その他のホルモン 体温
4	/	胸郭 胸膜 呼吸筋と呼吸運動	19	/	体温
5	/	呼吸機能の測定 ガス交換	20	/	生殖とは 女性生殖器
6	/	ガス交換 酸素・二酸化炭素の運搬	21	/	卵巣ホルモン 卵巣周期
7	/	二酸化炭素の運搬 酸塩基平衡 呼吸の調節	22	/	月経周期 乳腺
8	/	内分泌総論	23	/	男性生殖器系
9	/	ホルモンの種類 内分泌の特徴	24	/	妊娠と発生 受精と性決定 妊娠
10	/	内分泌の特徴	25	/	妊娠
11	/	視床下部 下垂体	26	/	胎児発生と発育 分娩
12	/	甲状腺	27	/	生体のリズム 成長と加齢
13	/	甲状腺 練習問題	28	/	死 練習問題
14	/	試験	29	/	試験
15	/	試験解説	30	/	試験解説
教科書 参考書等		医歯薬出版社 東洋療法学協会編 内田さえ 鍵谷方子 他 著 解剖生理			
評価方法		試験を主としてレポートとを合わせて評価する 各期における評価が60点以上で単位を認定する。			
成績評価指標		1. 当該科目の総授業時間数のうち3分の2以上の出席に達しない者は、単位の認定を行わない。 2. 成績評価の基準は次の通りとし、A、B、C、Dを合格、Fを不合格とする。 (1)A:90～100点 (2)B:80～89点 (3)C:70～79点 (4)D:60～69点 (5)F:60点未満			

科 目		人体の構造と機能Ⅲ			
科目分野	専門基礎 分野	学 期	前中 期		
学 年	1 年次	担当教員	大久保直子		
単位数	2 単位		実務経験	治療院勤務20年	
【授業の概要】 授業形態 講義					
人体の循環器系、免疫系の構造と機能を理解し、各部の名称と働きを把握する。					
【到達目標】					
各器官系の構造と機能を理解すると共に器官系の相互の関連を理解し、次年度以降の科目の土台をつくる。					
回	授業計画		回	授業計画	
1	第5章循環系 A循環系		16	第5章循環系 C血管系	
2	第5章循環系 B心臓		17	第5章循環系 C血管系	
3	第5章循環系 B心臓		18	第5章循環系 C血管系	
4	第5章循環系 B心臓		19	第5章循環系 C血管系	
5	第5章循環系 B心臓		20	第5章循環系 D血圧	
6	第5章循環系 B心臓		21	第5章循環系 D血圧	
7	第5章循環系 C血管系		22	第5章循環系 Eリンパ系	
8	第5章循環系 C血管系 中間試験		23	第5章循環系 Eリンパ系 中間試験	
9	第5章循環系 C血管系		24	第6章血液と免疫 A血液	
10	第5章循環系 C血管系		25	第6章血液と免疫 A血液	
11	第5章循環系 C血管系		26	第6章血液と免疫 B生体防御機構	
12	第5章循環系 C血管系		27	第6章血液と免疫 B生体防御機構	
13	第5章循環系 C血管系		28	第6章血液と免疫 B生体防御機構	
14	第5章循環系 C血管系 期末試験		29	第6章血液と免疫 B生体防御機構 期末試験	
15	第5章循環系 C血管系		30	まとめ	
教科書 参考書等		『解剖生理』 東洋療法学校協会 編			
評価方法		原則、定期試験(中間試験も含む)と出席状況で評価する。 授業態度を加えることもある。 (小テストの日程は進度により前後することがあります。)			
成績評価指標		1. 当該科目の総授業時間数のうち3分の2以上の出席に達しない者は、単位の認定を行わない。 2. 成績評価の基準は次の通りとし、A、B、C、Dを合格、Fを不合格とする。 (1)A:90～100点 (2)B:80～89点 (3)C:70～79点 (4)D:60～69点 (5)F:60点未満			

科目		人体の構造と機能Ⅳ(解剖生理学)		
科目分野	専門基礎 分野	学 期	前中 期	
学 年	1 年次	担当教員	金子智久	
単位数	2 単位		実務経験	治療院勤務3年、治療院経営22年
【授業の概要】 授業形態 講義				
<p>人体の構造と機能(解剖生理学)は医療従事者としての重要な基礎科目であり、臨床医学を学上で必要となる。それを踏まえ解剖学的考察と生理学的考察を理解すべく説明して行く。</p>				
【到達目標】				
<p>人体の構成、消化器系、代謝・栄養、泌尿器系について解剖学、生理学に基づいて理解する。</p>				
回	授業計画	回	授業計画	
1	解剖学的考察:細胞、細胞質、細胞小器官	16	生理学的考察:膵臓、肝臓、胆嚢①	
2	解剖学的考察:組織と器官、上皮組織、支持組織	17	生理学的考察:膵臓、肝臓、胆嚢②	
3	解剖学的考察:筋組織、神経組織、器官系	18	生理学的考察:腹腔と腹膜腔	
4	生理学的考察:細胞、細胞質、細胞小器官	19	代謝と栄養:代謝とは、糖質、脂質	
5	生理学的考察:組織と器官、上皮組織、支持組織	20	代謝と栄養:タンパク質、ビタミン、ミネラル	
6	生理学的考察:筋組織、神経組織、器官系	21	解剖学的考察:腎臓の構造、尿の生成、	
7	解剖学的考察:消化器系とは、口腔、咽頭、食道	22	解剖学的考察:糸球体、尿細管	
8	解剖学的考察:胃、小腸、大腸	23	解剖学的考察:尿管、膀胱、尿道	
9	解剖学的考察:膵臓、肝臓、胆嚢①	24	生理学的考察:腎臓の機能、尿の生成	
10	解剖学的考察:膵臓、肝臓、胆嚢②	25	生理学的考察:尿の生成、尿細管	
11	解剖学的考察:腹腔と腹膜腔	26	生理学的考察:腎機能の測定、体液のPH調節	
12	生理学的考察:消化器系とは、口腔、咽頭、食道	27	生理学的考察:排尿	
13	生理学的考察:胃、小腸、大腸	28	予備日	
14	前期試験	29	中期試験	
15	前期試験解説	30	中期試験解説	
教科書 参考書等	解剖生理 東洋療法学校協会編			
評価方法	客観的試験交叉及び授業態度、出欠席等を総合的に評価する。 適時プリントを配布する。			
成績評価指標	<p>1. 当該科目の総授業時間数のうち3分の2以上の出席に達しない者は、単位の認定を行わない。</p> <p>2. 成績評価の基準は次の通りとし、A、B、C、Dを合格、Fを不合格とする。 (1)A:90~100点 (2)B:80~89点 (3)C:70~79点 (4)D:60~69点 (5)F:60点未満</p>			

科 目		人体の構造と機能Ⅴ			
科目分野	専門基礎 分野	学 期	前中 期		
学 年	1 年次	担当教員	大木 慎平		
単位数	2 単位		実務経験	治療院経営7年	
【授業の概要】 授業形態 講義					
ヒトにおける神経系の構造と機能を学び、今後の学習の基礎を身に着ける。					
【到達目標】					
神経系の構造、機能の機序を理解し、説明することができる。					
回	授業計画		回	授業計画	
1	A. 神経系と神経組織 1. 神経系の分類		16	D. 末梢神経系 1. 脳神経①	
2	2. 神経組織		17	1. 脳神経②	
3	3. 神経細胞の興奮と伝導		18	1. 脳神経③	
4	4. シナプス伝達		19	問題演習	
5	B. 中枢神経系 1. 中枢神経系の構造2. 統合機能		20	2. 脊髄神経①	
6	3. 大脳		21	2. 脊髄神経②	
7	4. 間脳 5. 脳幹		22	2. 脊髄神経③	
8	6. 小脳 7. 脳波と睡眠		23	2. 脊髄神経④	
9	8. 脊髄		24	問題演習	
10	9. 中枢神経系の保護と栄養		25	3. 自律神経系①	
11	C. 伝導路と運動調節 1. 運動性の下行路		26	3. 自律神経系②	
12	2. 感覚系の伝導路 3. 骨格筋の神経支配		27	3. 自律神経系③	
13	4. 運動反射		28	問題演習	
14	前期期末試験		29	中期期末試験	
15	試験返却		30	試験返却	
教科書 参考書等		『解剖生理』 東洋療法学校協会編			
評価方法		各期の筆記試験から評価する。 また、各章ごとに実施する小テストの結果も加点対象とする。 各期における評価が60点以上で単位を認定する。			
成績評価指標		1. 当該科目の総授業時間数のうち3分の2以上の出席に達しない者は、単位の認定を行わない。 2. 成績評価の基準は次の通りとし、A、B、C、Dを合格、Fを不合格とする。 (1)A:90～100点 (2)B:80～89点 (3)C:70～79点 (4)D:60～69点 (5)F:60点未満			

科目		東洋医学概論		
科目分野	専門基礎 分野	学期	前中期	
学年	1 年次	担当教員	笠井 友和	
単位数	2 単位		実務経験	治療院勤務10年、開業24年
【授業の概要】 授業形態 講義				
<p>経絡経穴および陰陽五行を中心とした東洋医学的知識を身に着け、施術者が臨床において運用出来る事を目標にして講義する。授業内に点数が成績評価に反映する小テストおよび反映しない小テストを定期的に行いこの科目に対する学習法を習得させ、学習度を確認する。なお、学生の習熟度により柔軟に授業計画を変更する場合がある。</p>				
【到達目標】				
<p>陰陽五行と十四経脈の流注、主要な経穴の取穴、要穴を述べる事ができる。かつ経絡経穴を実際の人体に示せるようになる。</p>				
回	授業計画	回	授業計画	
1	陰陽五行、経絡経穴の基礎①	16	足の太陽膀胱経①、陰陽五行	
2	陰陽五行、経絡経穴の基礎②	17	足の太陽膀胱経②、陰陽五行	
3	手の太陰肺経、陰陽五行	18	背部経穴横並び、陰陽五行	
4	手の陽明大腸経、陰陽五行	19	足の少陰腎経、陰陽五行	
5	足の陽明胃経、陰陽五行	20	手の厥陰心包経、陰陽五行	
6	1～5回授業まとめ	21	16～20回授業まとめ	
7	前期中間試験	22	中期中間試験	
8	試験返却、解答解説	23	試験返却、解答解説	
9	足の太陰脾経、陰陽五行	24	手の少陽三焦経、陰陽五行	
10	手の少陰心経、陰陽五行	25	足の少陽胆経、陰陽五行	
11	奇経八脈督脈、陰陽五行	26	足の厥陰肝経、陰陽五行	
12	手の太陽小腸経、陰陽五行	27	奇経八脈任脈、胸腹部横並び	
13	9～12回授業まとめ	28	24～27回授業まとめ	
14	前期期末試験	29	中期期末試験	
15	試験返却、解答解説	30	試験返却、解答解説	
教科書 参考書等	経絡経穴概論、東洋医学概論 東洋療法学校協会編			
評価方法	前期と中期それぞれに、①複数回の小テスト合計から満点10点分算出／②中間試験から満			
成績評価指標	<p>1. 当該科目の総授業時間数のうち3分の2以上の出席に達しない者は、単位の認定を行わない。</p> <p>2. 成績評価の基準は次の通りとし、A、B、C、Dを合格、Fを不合格とする。 (1)A:90～100点 (2)B:80～89点 (3)C:70～79点 (4)D:60～69点 (5)F:60点未満</p>			

科 目		浪越指圧理論			
科目分野	専 門 分 野	学 期	前 期		
学 年	1 年次	担当教員	金子 泰隆		
単位数	1 単 位		実務経験	治療院経営21年	
【授業の概要】 授業形態 講 義					
浪越式指圧療法がどのような治療法であるのかを医学の様々な視点から分析していく。また、どのような症状に対して効果が期待できるのか、その機序はどうなっているのかについて解説していく。					
【到達目標】					
浪越式指圧療法における圧点を理解し、様々な症状に対して効果的な施術法について理解する。					
回	授業計画		回	授業計画	
1	ガイダンス		16		
2	業界の現状と指圧師の役割①		17		
3	業界の現状と指圧師の役割②		18		
4	圧法の種類について		19		
5	浪越指圧の歴史について		20		
6	基本指圧の圧点について①		21		
7	基本指圧の圧点について②		22		
8	基本指圧の圧点について③		23		
9	基本指圧の圧点について④		24		
10	疾患に対する対応について		25		
11	症状に対する指圧①		26		
12	症状に対する指圧②		27		
13	症状に対する指圧③		28		
14	期末試験		29		
15	まとめ		30		
教科書 参考書等		指圧療法学			
評価方法		期末試験の点数と授業態度等を総合的に判断する。			
成績評価指標		1. 当該科目の総授業時間数のうち3分の2以上の出席に達しない者は、単位の認定を行わない。 2. 成績評価の基準は次の通りとし、A、B、C、Dを合格、Fを不合格とする。 (1)A:90～100点 (2)B:80～89点 (3)C:70～79点 (4)D:60～69点 (5)F:60点未満			

科目		基礎指圧実技			
科目分野	専門 分野	学期	前 中 後 期		
学年	1 年次	担当教員 (実務経験)	浪越雄二(治療院勤務33年) 黒沢純一(治療院勤務23年) 高橋雄輔(治療院勤務21年) 本多剛(治療院勤務21年) 青木美稚子(治療院勤務13年)		
単位数	7 単位				
【授業の概要】 授業形態 実技					
創始者浪越徳治郎先生の基本指圧、基本指圧の全身操作の順序、指の使い方、姿勢、圧の入れ方等を学ぶすなわち全身指圧の習得。及び自己指圧、坐位指圧の習得。 授業の進行は予定の進度表に準じて反復繰り返し進めて行います。					
【到達目標】					
全身の基本圧点を正確に圧せるようになる。指圧の3原則＝垂直圧。持続圧。集中の原則ができるようになる。圧の加減すなわち漸増、漸減圧をコントロールできるようになる。全身を90分で施術することができるようにする。					
回	授業計画		回	授業計画	
1	【前期】 オリエンテーション 自己紹介		26	仰臥位 下肢①+②	
2	自己指圧 頭部・顔面部・頸部		27	伏臥位 伏臥位①(後頭部～肩甲間部)	
3	自己指圧 腹部		28	伏臥位 伏臥位①(後頭部～肩甲間部)	
4	自己指圧 上肢① 腋窩部～三角胸筋溝部		29	伏臥位 伏臥位②(肩甲下部～腸骨稜上部)	
5	自己指圧 上肢② 上腕外側部～上肢伸展		30	伏臥位 伏臥位②(肩甲下部～腸骨稜上部)	
6	自己指圧 下肢① 鼠径部～膝蓋骨周囲部		31	伏臥位 伏臥位③(仙骨部～大腿後側部)	
7	自己指圧 下肢② 膝窩部～足底部		32	伏臥位 伏臥位③(仙骨部～大腿後側部)	
8	自己指圧 背部・腰部		33	伏臥位 伏臥位④(膝窩部～背部調整法)	
9	座位①		34	伏臥位 伏臥位④(膝窩部～背部調整法)	
10	座位②		35	伏臥位 伏臥位①+②+③+④	
11	仰臥位 頭部①		36	伏臥位 伏臥位①+②+③+④	
12	仰臥位 頭部②		37	伏臥位 伏臥位①+②+③+④	
13	仰臥位 上肢①(腋窩部～前腕部)		38	復習 仰臥位 頭部・上肢	
14	仰臥位 上肢①(腋窩部～前腕部)		39	復習 仰臥位 下肢	
15	仰臥位 上肢②(三角胸筋溝～上肢伸展)		40	復習 伏臥位①	
16	仰臥位 上肢②(三角胸筋溝～上肢伸展)		41	復習 伏臥位②	
17	仰臥位 上肢①+②		42	復習 試験に向けての自由練習	
18	仰臥位 上肢①+②		43	実技試験	
19	仰臥位 上肢①+②		44	実技試験	
20	仰臥位 下肢①(大腿前側部～大腿外側部)		45	実技試験	
21	仰臥位 下肢①(大腿前側部～大腿外側部)		46	【中期】 横臥位 横臥位①(頸部)	
22	仰臥位 下肢②(膝蓋骨周囲部～下肢伸展)		47	横臥位 横臥位①(頸部)	
23	仰臥位 下肢②(膝蓋骨周囲部～下肢伸展)		48	横臥位 横臥位①(頸部)	
24	仰臥位 下肢①+②		49	横臥位 横臥位②(肩甲上部～脊柱までおろし)	
25	仰臥位 下肢①+②		50	横臥位 横臥位②(肩甲上部～脊柱までおろし)	

51	横臥位 横臥位②(肩甲上部～脊柱なでおろし)	79	復習 伏臥位通し②
52	横臥位 横臥位①+②	80	復習 横臥位
53	横臥位 横臥位①+②	81	復習 試験に向けて自由練習①
54	横臥位 横臥位①+②	82	復習 試験に向けて自由練習②
55	仰臥位 顔面部 頭部復習	83	復習 試験に向けて自由練習③
56	仰臥位 胸部(左肋間部～なでおろし)①	84	実技試験
57	仰臥位 胸部(左肋間部～なでおろし)② 頭部・顔面部復習	85	実技試験
58	仰臥位 腹部①(触診～小腸部)	86	実技試験
59	仰臥位 腹部①(触診～小腸部)	87	実技試験
60	仰臥位 腹部②(下行結腸部～振動掌圧)	88	実技試験
61	仰臥位 腹部②(下行結腸部～振動掌圧)	89	実技試験
62	仰臥位 腹部①+②	90	予備日
63	仰臥位 腹部①+②	91	【後期】全身操作 号令
64	仰臥位 腹部①+②	92	全身操作 号令
65	復習 仰臥位 上肢	93	全身操作 号令
66	復習 仰臥位 下肢	94	全身操作 号令
67	復習 仰臥位 上肢・下肢通し	95	全身操作 号令
68	復習 仰臥位 頭部・顔面部・胸部	96	全身操作 号令
69	復習 腹部	97	全身操作
70	復習 伏臥位通し①	98	全身操作
71	復習 伏臥位通し②	99	全身操作
72	復習 横臥位	100	全身操作
73	復習 仰臥位 上肢	101	全身操作
74	復習 仰臥位 下肢	102	全身操作
75	復習 仰臥位 上肢・下肢通し	103	全身操作
76	復習 仰臥位 頭部・顔面部・胸部	104	全身操作
77	復習 腹部		
78	復習 伏臥位通し①		

教科書 参考書等	指圧療法学 改訂第1版② 国際医学出版
評価方法	出席状況、授業態度、定期試験による評価が60点以上で単位を認定する。
成績評価指標	1. 当該科目の総授業時間数のうち3分の2以上の出席に達しない者は、単位の認定を行わない。 2. 成績評価の基準は次の通りとし、A、B、C、Dを合格、Fを不合格とする。 (1)A:90～100点 (2)B:80～89点 (3)C:70～79点 (4)D:60～69点 (5)F:60点未満

科 目		社会科学Ⅱ（社会福祉）	
科目分野	基礎 分野	学 期	中 期
学 年	1 年次	担当教員	工藤 豪
単位数	2 単位		
【授業の概要】 授業形態 講義			
<p>わが国における社会福祉の歴史的展開を社会経済状況と関連させながら把握する。また、人口高齢化および少子化についての基本的知識を理解するとともに、その推移・要因・影響などについて理解を深める。そして、わが国における社会保障制度の仕組みを確認し、医療・介護・年金・生活保護の特徴や課題について講義する。</p>			
【到達目標】			
<p>なぜ日本は人口高齢化が著しいのか？、なぜ日本は少子化を克服することができないのか？、日本の社会保障（医療・介護・年金・生活保護など）はどのような特徴や課題を抱えているのか？、などについて説明できるようになる。</p>			
回	授業計画	回	授業計画
1	社会福祉の歴史的展開(1)—戦前の日本—	16	
2	社会福祉の歴史的展開(2)—戦後の日本—	17	
3	人口高齢化(1)—世界と日本の人口動向—	18	
4	人口高齢化(2)—人口高齢化の概念と推移—	19	
5	人口高齢化(3)—長寿化と人口移動—	20	
6	少子化(1)—合計特殊出生率の推移とその背景—	21	
7	少子化(2)—結婚・出産・就業・子育て—	22	
8	少子化(3)—少子化の要因と対策の関係性—	23	
9	社会保障と社会福祉(1)—社会保障制度—	24	
10	社会保障と社会福祉(2)—医療保険制度①—	25	
11	社会保障と社会福祉(3)—医療保険制度②—	26	
12	社会保障と社会福祉(4)—介護保険制度—	27	
13	社会保障と社会福祉(5)—公的年金保険制度—	28	
14	社会保障と社会福祉(6)—生活保護制度—	29	
15	社会保障と社会福祉(7)—児童虐待—	30	
教科書 参考書等	教科書は使用しません。参考文献は紹介しますが購入の必要はありません。		
評価方法	授業毎の提出課題：75%（各1点の確認問題が4問、提出で1点獲得、計5点×15回） リアクションペーパー：25%（授業全体に対する感想を記述、15回目の授業日に提出）		
成績評価指標	<p>1. 当該科目の総授業時間数のうち3分の2以上の出席に達しない者は、単位の認定を行わない。</p> <p>2. 成績評価の基準は次の通りとし、A、B、C、Dを合格、Fを不合格とする。 (1)A:90～100点 (2)B:80～89点 (3)C:70～79点 (4)D:60～69点 (5)F:60点未満</p>		

科 目		医療概論	
科目分野	専門基礎 分野	学 期	中 期
学 年	1 年次	担当教員	高橋 雄輔
単位数	1 単位		
【授業の概要】 授業形態 講義			
現代医学の基礎となっているヨーロッパ医学の歴史と指圧などの手技療法の歴史を学習します。また後半は主にあん摩マッサージ指圧師が制度上どのような位置づけにあるのかを中心に医療保険と介護保険について学習します。			
【到達目標】			
具体的にこれが出来るようになる、という到達目標は定めませんが医療における技術や倫理の問題は現代においても未解決のものが、みなさんが医療従事者として患者に接していく上で現実の問題として遭遇することもあると思います。医療や倫理の問題に対して自分なりに考え意見を持っていただけたら良いと思います。			
回	授業計画	回	授業計画
1	医学史ガイダンス 古代ギリシャとヒポクラテス	16	
2	中世ヨーロッパの医学	17	
3	17世紀、18世紀ヨーロッパの医学	18	
4	19世紀以降ヨーロッパの医学	19	
5	日本の医療と医学の歴史	20	
6	手技療法の歴史	21	
7	浪越徳治郎先生と杉山和一	22	
8	予備日	23	
9	医療保険の概要	24	
10	医療保険とあん摩マッサージ指圧師	25	
11	介護保険の概要	26	
12	介護保険とあん摩マッサージ指圧師	27	
13	試験準備	28	
14	中期試験	29	
15	試験返却 まとめ	30	
教科書 参考書等	中川米造「医療概論」医歯薬出版株式会社		
評価方法	定期試験と授業の出欠状況の総合評価。授業態度はポジティブ評価をします。		
成績評価指標	1. 当該科目の総授業時間数のうち3分の2以上の出席に達しない者は、単位の認定を行わない。 2. 成績評価の基準は次の通りとし、A、B、C、Dを合格、Fを不合格とする。 (1)A:90～100点 (2)B:80～89点 (3)C:70～79点 (4)D:60～69点 (5)F:60点未満		

科 目		人体の構造と機能VI	
科目分野	専門基礎 分野	学 期	後 期
学 年	1 年次	担当教員	金子智久 大久保直子
単位数	1 単位		
【授業の概要】 授業形態 講義 感覚系の構造と機能を理解し、各部の名称と働きを把握する。 局所解剖を理解し、人体の観察に理解を深める。			
【到達目標】 各器官系の構造と機能を理解すると共に器官系の相互の関連を理解し、次年度以降の科目の土台をつくる。			
回	授業計画	回	授業計画
1	第12章 局所解剖 (大久保)	16	
2	第4章 感覚: 感覚の一般的性質(金子)	17	
3	第12章 局所解剖 (大久保)	18	
4	第4章 感覚: 視覚、聴覚(金子)	19	
5	第12章 局所解剖 (大久保)	20	
6	第4章: 感覚: 平衡感覚(金子)	21	
7	第12章 局所解剖 (大久保)	22	
8	第4章 感覚: 味覚、嗅覚(金子)	23	
9	第12章 局所解剖 (大久保)	24	
10	第4章 感覚: 体性感覚と内臓感覚①(金子)	25	
11	第12章 局所解剖 (大久保) 定期試験	26	
12	第4章 感覚: 体性感覚と内臓感覚② 定期試験(金子)	27	
13	第12章 局所解剖 (大久保)	28	
14	第4章 感覚: 痛覚(金子)	29	
15	評価試験	30	
教科書 参考書等	『解剖生理』 東洋療法学校協会 編		
評価方法	原則、定期試験と出席状況で評価する。 授業態度を加えることもある。		
成績評価指標	1. 当該科目の総授業時間数のうち3分の2以上の出席に達しない者は、単位の認定を行わない。 2. 成績評価の基準は次の通りとし、A、B、C、Dを合格、Fを不合格とする。 (1)A: 90～100点 (2)B: 80～89点 (3)C: 70～79点 (4)D: 60～69点 (5)F: 60点未満		

科目	社会保障制度及び職業倫理		
科目分野	専門基礎 分野	学期	後 期
学年	1 年次	担当教員	久坂 健太
単位数	1 単位		
【授業の概要】 授業形態 講義 あん摩マッサージ指圧師として社会と関わっていく上で、身につけておくべき社会制度に関する知識や倫理を学ぶ。			
【到達目標】 社会保障制度の概要を理解・把握する。 医療者として、社会、患者とどのように関わっていくのか考えることができる。			
回	授業計画	回	授業計画
1	社会保障制度の概要	16	
2	医療従事者と医療施設	17	
3	医療と医療経済	18	
4	医療保険の仕組み	19	
5	公的医療負担	20	
6	介護サービス行政	21	
7	医療倫理の歴史	22	
8	医療倫理	23	
9	施術者としての倫理	24	
10	生命倫理①(終末期の問題)	25	
11	生命倫理②	26	
12	問題演習	27	
13	期末試験	28	
14	返却・解説	29	
15	問題演習	30	
教科書 参考書等	適宜配布する資料をメインに進めていく。		
評価方法	試験結果から評価する。 60点以上で単位を認定する。		
成績評価指標	1. 当該科目の総授業時間数のうち3分の2以上の出席に達しない者は、単位の認定を行わない。 2. 成績評価の基準は次の通りとし、A、B、C、Dを合格、Fを不合格とする。 (1)A:90～100点 (2)B:80～89点 (3)C:70～79点 (4)D:60～69点 (5)F:60点未満		

科 目		臨床指圧総論Ⅰ		
科目分野	専 門 分 野	学 期	後 期	
学 年	1 年次	担当教員	石塚洋之	
単位数	1 単 位		実務経験	治療院勤務 16年
【授業の概要】 授業形態 実 技				
1年で学習した基本指圧をふまえ、より精度の高い圧を身につけ、身体の触察、圧法の種類などを学ぶ。また、基本指圧を主軸に臨床指圧の基礎を学ぶ。				
【到達目標】				
押圧の理論を知り実践することで、より精度の高い垂直圧・持続圧を目指す。2年生、3年生での臨床実習での基礎的な知識を身につける。				
回	授業計画		回	授業計画
1	基本指圧と機能解剖学／運動動作に対応する指圧【肩関節】①筋肉の作用からアプローチ部位を組み立てる		16	
2	基本指圧と機能解剖学／運動動作に対応する指圧【肩関節】②作用筋以外が原因の動作制限		17	
3	基本指圧と機能解剖学／運動動作に対応する指圧【肩関節】③関連関節(アライメント)による動作制限		18	
4	基本指圧と機能解剖学／運動動作に対応する指圧【腰部】①動作時痛から考える		19	
5	基本指圧と機能解剖学／運動動作に対応する指圧【腰部】②動作時痛から考える		20	
6	記録と問診・考察：総復習		21	
7			22	
8			23	
9			24	
10			25	
11			26	
12			27	
13			28	
14			29	
15			30	
教科書 参考書等	指圧療法学 国際医学出版／主にプリントを配布し利用します。			
評価方法	出席状況で評価する。 ※出席状況の評価 欠席－6点、早退・遅刻・見学－2点とする。			
成績評価指標	1. 当該科目の総授業時間数のうち3分の2以上の出席に達しない者は、単位の認定を行わない。 2. 成績評価の基準は次の通りとし、A、B、C、Dを合格、Fを不合格とする。 (1)A:90～100点 (2)B:80～89点 (3)C:70～79点 (4)D:60～69点 (5)F:60点未満			